

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
(旧 名古屋第二赤十字病院)で
診療を受けられた／受けられる患者さんへ
～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	当院 NICU における薬剤感受性パターンと Phage Open Reading Frame typing (POT) 法から推測した MRSA 伝播様式の比較検討		
研究実施予定期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2025年3月31日		
研究実施診療科	小児科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2018年9月19日	
	院長が研究実施を許可した日	2018年9月20日	
対象となる方	(西暦) 2016年1月1日～(西暦) 2025年3月31日に、当院 NICU へ入院となった新生児		
研究責任者	所属	小児科	氏名 幸脇正典
研究の意義	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (methicillin-resistant Staphylococcus aureus ; MRSA) は、医療関連感染の最も主要な病原微生物のひとつです。MRSA の院内伝播を防止するにはサーベイランスが重要です。当院 NICU では、MRSA のサーベイランスとして定期的に細菌培養検査を行なっています。しかしながら、培養検査で得られる抗菌薬の感受性試験だけでは、感染源や感染経路を特定できないのが現状です。今回の研究では、分子疫学解析法の一つとして開発された Phage Open Reading Frame typing (POT) 法と比較することで、現在の抗菌薬の感受性試験に基づいた感染経路の推測方法の弱点を明確にできる可能性があります。		
研究の目的	既存の薬剤感受性試験と分子疫学解析法の一つとして開発された Phage Open Reading Frame typing (POT) 法を用いて、それぞれの検査結果から推測した NICU における MRSA の伝播様式を比較検討し、今後の感染対策に役立てることを目的とします。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、分子疫学的に解析します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる細菌培養検査の結果および微生物検査室で実施した POT 法の結果を、匿名化して使用します。		
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個		

	人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	個人情報は対象者が特定できない形で取り扱い、本研究以外の目的では使用しません。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 小児科 山田 崇春 電話 052-832-1121 (代表)